

## 第6回高砂市新たな学校づくり推進審議会 会議録

日 時 令和7年1月5日（水）19時00分から

場 所 高砂市役所分庁舎1階大会議室

### 出席者

#### 【委員】(名簿順、敬称略)

押田 貴久、安枝 英俊、塩田 和子、坂牛 裕、坂田 克己、橋本 尚人  
衣笠 彩、八木 直子、大谷 敬一郎、塩谷 右京、川由 伸一、砂川 辰義  
山里 護、實川 凜

#### 【事務局】

玉野教育長、木田教育部長、吉金教育推進室長、平山学校教育室長  
竹内教育総務課長、石原教育総務課主幹、長谷川教育総務課係長、井上教育総務課職員

#### 【事業者】

ファインコラボレート研究所（土肥）

欠席者 1名

傍聴者 0名

### 内 容

1 開会

2 議題

- (1) 他市町村の事例紹介
- (2) これまでの議論と今後の方向性（案）のまとめ
- (3) 意見聴取の結果について
- (4) 高砂市が目指す「これからの学校像」
- (5) その他

3 閉会

### 資 料

#### 【事前配付】

高砂市新たな学校づくり推進審議会（第6回）次第

資料1 これまでの議論と今後の方向性（案）のまとめ

資料2 意見聴取結果のまとめ

資料3 高砂市が目指す「これからの学校像」

資料4 高砂市新たな学校づくり推進計画策定等業務工程表（令和7年度）

参考資料1 コミュニティ・スクールの“これまで”と“これから”

参考資料2 学校3部制推進プランの策定に向けた基本的な考え方

参考資料3 学校三部制に係る教室等の活用に関する規則（奈良県天理市）

参考資料4 他市町村の整備事例

#### 【投影資料】

第5回高砂市新たな学校づくり推進審議会資料の内容について（審議会後）

これからの学校のあり方を考えよう！ 実施一覧

1 開会	
事務局	机上に資料 3 高砂市が目指す「これからの中学校」の差し替えを配付しております。 前回同様、審議会の様子を撮影させていただきたいと思いますので、支障がございましたら、事務局にお申し付けください。
会長	高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第七条の規定に基づき、今回の審議会は公開とします。傍聴希望者はいらっしゃいますか。
事務局	傍聴の申し出はありませんでした。
会長	委員の出欠状況をお願いします。
事務局	就学前教育の保護者代表の三好委員は欠席との連絡をいただいております。
会長	1名の委員が欠席ですが、過半数の委員の出席をいただいているので、高砂市新たな学校づくり条例第六条第2項により、本会は成立しております。 それでは、第6回高砂市新たな学校づくり推進審議会を開会します。 議題に入る前に、第5回審議会後に委員からいただいた意見を事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>第5回審議会の資料1、安全・安心、快適に過ごすことができる施設の整備の給食について、解体する可能性のある調理室を改修するのはコスト面から絶対に避け欲しい。すべての学校再編が終了するまでに長いスパンがあるので、①、②の案を提案する。①は1~3校の食数を処理できる小学校用の給食センターの整備。学校再編や建替えの際、順番に対応していく。②は耐久があり食数がある学校の調理室で対応。小学校用給食センターが必要でなくなったときは、市民食堂として稼働させるなどの活用法も検討しておく必要がある。小学校用給食センターを建設すると、食中毒が発生した際の緊急的な事業継続のための代替施設としても活用できるといった、小学校を自校式として改善していく際、効率的に推進できるアイデアをご提案いただきました。</p> <p>プールについて、老朽化を改修するのはコスト面から絶対に避け、新校舎の設備などに回して欲しい。再編をするまでにプールが実施できないほど老朽化が進んだ場合、その学校から外部委託や他校のプールを借りるなどの措置をして欲しい。一定程度のプール教育はあってもいいと思うが、受け入れ先の問題やコスト、送迎を伴ったカリキュラムの圧迫を考えると、着衣水泳等に厳選し、指導量を最小化することで行政や現場の負担を最小限にできると思う。プール利用チケットを児童生徒に配布し、所定のプールクラブで着衣水泳の訓練を受けられる制度にしてはどうかといった効率的かつ教職員の負担が最低限にできるようなアイデアをご提案いただきました。</p> <p>資料2 地域とともにある学校の推進の部活動について、子どもたちにとって有意義な面が多かったと思うので、部活動がなくなることは残念に感じる。しかし、現状の学校には負担があまりにも大きすぎるため、思い切ってなくしていくべきだと思う。</p> <p>その他として両荘みらい学園の事例をご紹介しましたが、その内容について、建物として考え抜かれていることに感銘を受けたので、高砂市ではうまく取り入れて欲しい。学校は抱え込むものが多すぎるし、先生方に求められる業務が多すぎる。学校や教師への負担は非常に大きく、教育を実施するための体制が整いにくい現状なので、教師志望者の減少や大きな事故を引き起こす原因となるのではないか。そうした問題を避けるためにも、思い切って捨て去らないといけないことは多くあると思う。時代に即した魅力的なことや残しておきたい大切なことをより積極的に取り入れるべきだと思う。校区再編になるとバスの運行が必要になると思うので、早めに検討しいつでも稼働できるようにした方がいいと思うといったご意見を頂戴しました。</p>
2 議題 (1) 他市町村の事例紹介	

会長	議題（1）他市町村の事例紹介について、事務局から説明をお願いします。
事務局 副会長	議題（1）他市町村の事例紹介について説明
委員	全国で素晴らしいデザインの学校が作られているが、とても費用がかかるし、かなりの時間が必要になると思います。こういうのを作るということを方針の中に入れるのでしょうか。
事務局	来年度、学校施設のあり方として、高砂市の学校はこうしていくというのを一定程度まとめていきたいと思っていますが、今回の事例は非常に大規模で立派な学校ですので、全てを実際にするかというのを決めるのではなく、オープンスクールの考え方を高砂市としてはどのように持っていくのかとか、地域との関わりとして特別教室をどういった形で使っていくのかなどをまとめていきたいと考えています。
会長	具体的な設計に関する部分については、各学校の状況をその都度確認し、残せる部分は活かしつつ、老朽化が進む箇所は全面的な見直しを行うなど、個別に対応することになると思います。 また、新たな施設設備については、夢物語を語りすぎてもいけないけれども、今後50年程度使用することを踏まえ、時代の変化を見据えた理念や考え方を示し、現実的でありながら将来を見据えた提案が求められます。 学校は本来児童生徒のための施設ですが、今後は市民にも開かれ、共有して活用できる建物としていくことが望ましいと考えています。
委員	この資料を見ると、市民は「今後はこうなるのだろう」と期待を抱くはずであり、その期待は新たな学校づくり推進計画に反映されるべきだと考えています。しかし、見本では魅力的に見えても、実際に出てきたものが全く違うという“期待外れ”が起こらないかを心配しています。
2 議題 議題	（2）これまでの議論と今後の方向性（案）のまとめ （3）意見聴取の結果について
会長	議題（2）これまでの議論と今後の方向性（案）のまとめについて、議題（3）意見聴取の結果について事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1 これまでの議論と今後の方向性（案）のまとめをお願いします。 こちらの資料は、今までの議論とその結果まとめ、今後の方向性の案を一覧にしたものです。テーマとの現状と課題、審議会の議論で活用した昨年11月実施のアンケート調査結果や、2月に実施した市民報告会の意見を掲載させていただいている。下には課題に対して審議会で出された意見を記載しています。そして、その議論を踏まえてまとめた方向性の案を一番右側に記載しています。 資料2 意見聴取結果のまとめをお願いします。 審議会の議論に並行して、各テーマに関して児童、生徒、教職員、就学前職員、市民に意見聴取を進めてまいりましたので、その結果をご報告するものです。教職員は、今年の5月から6月にかけて各小中学校長から指名された約8名、計116名の教職員に対しアンケート調査を実施し、その後、教頭会にて2回にわたりワークショップを実施しました。児童は今年の6月から7月にかけて、各小学校6年生の5人から6人、計56名にヒアリング調査を、生徒は7月に全中学校生徒会役員の生徒57名に対しアンケート調査を実施するとともに、8月に開催された全中学校の生徒会役員の代表メンバーの30名が参加したいきいき生徒会にてワークショップを実施しました。同じく、8月に子育て支援課主催の市長と話そうワークショップで新たな学校づくりをテーマとし、ご意見をいただきました。就学前職員は9月にアンケート調査を実施し、合計219名からご意見をいただきました。市民は9月に2回ワークショップを開催し、計31名よりご意見を伺っております。 1ページをお願いします。 いただいたご意見がたくさんありますので、主な意見をテーマごとにまとめたも

のになります。3ページからは各調査でいただいたご意見をできる限り全て掲載したものになります。文字が小さいのですけど、できるだけいただいたご意見を見ていただきたく、そのようなまとめ方をさせていただいております。本日は1ページ・2ページのまとめを用いてご説明します。

まず適正規模についてです。

児童からは、1学年に何クラスあるとよいかという問い合わせに対し、1から3クラスの回答が最も多く、クラス替えによる新しい出会いを重視する声が多い結果となっております。

生徒からは、4から5クラスの回答が最も多く、理由としては新しい人間関係が築ける、行事が盛り上がる、クラス替えがしやすいといった意見がありました。教職員からは、小学校は2から4クラス、中学校は4から6クラスが適しているという回答が最も多く、単学級の場合、教員の業務量増加や相談相手の不足などの不安の声が挙げられました。適正配置については、小学校は4キロ30分以内、中学校は6キロ60分以内の回答が最も多く、通学の安全面や体力面を考慮した対応策は必要だという意見がありました。

就学前職員からは、小学校が2から3クラス、中学校が4から6クラスが適しているとの回答が最も多く、クラス替えができ、環境の変化や多様な関わり方ができるという意見がありました。適正配置については、小学校は4キロ30分以内、中学校は6キロ60分以内の回答が最も多かったですが、国の基準以上は安全面や熱中症へのリスクが高まることへの不安の声がありました。また、中学校においては自転車の使用を前提とするというご意見が多くございました。

市民の方々からは、財政効率、行政効率だけではなく、教育効果、教育課程の検証が必要、クラス替えができないのは問題であるといったご意見がありました。次に連続性のある小中一貫教育についてです。

児童からは、小学校と中学校が建物や敷地が一緒になったらどう思うかという問い合わせに対し、9年間同じ場所で過ごせる、たくさんの人と関わっていい経験ができるなどの肯定的な意見がある一方で、遊具や自由なスペースが狭くなってしまう、新しい友達ができずに飽きてしまうといった意見もありました。生徒にも児童と同様の質問をし、9年間を見通したカリキュラムになるのはいい、縛が深まり仲良く過ごせそうなどの肯定的な意見がある一方で、環境が変わらず成長する機会や人間関係を築く機会が少なくなるという意見をいただきました。

教職員からは、小中一貫の形態として、施設分離型・隣接型を望む声が最も多い結果となりました。小学校6年生の成長の場を奪いかねない、小中の指導についてのすり合わせをする時間が必要である、ある程度の距離感が必要であるといったご意見や、隣接だと交流がしやすいといったご意見もございました。ただ、義務教育学校と施設一体型を分けて質問しましたので、それらを望むご意見を合わせると、施設分離型、隣接型と同数という結果となっております。小中の区切りではなく、年齢に応じた活動、合意形成のしやすさ、交流のしやすさといった理由が挙げられました。また、推進にあたっては担当者が欲しいといったご意見もございました。

就学前職員からは、就学前施設も含めた一貫教育における望ましい学校施設の形態をお聞きしました。こちらについては施設併設型を望む声が最も多く、連携が取りやすく、互いを知る機会が増えることで就学への不安が和らぐといったご意見をいただきました。

次に教職員の働く環境についてです。

教職員からは教育業務に専念できる人員配置を望む声が多くありました。また、広く明るく快適で休憩や打ち合わせができるスペースや収納などの設備が整い、通信環境や空調も充実した安心して働ける職員室が望まれていました。

市民からは、先生方が安心して働ける環境を整えることが子どもの充実した教育につながるというご意見を頂戴しております。

次に給食についてです。

児童からは、バイキングやビュッフェ形式、校内に食堂や売店を望む声がありました。

生徒からは、いきいき生徒会のワークショップでの意見ですけれども、「私が新しい学校をつくるなら、こうしたい3つのこと」というテーマで参加者から意見を出し合い、各学校で2つに絞りまして、最後に参加者で投票を行いました。その中で1位になったのが、給食か弁当か学食を選べるというアイデアでした。

教職員からは、給食事務の多さや栄養教諭の配置を望む声があがり、給食方式については、小学校は自校方式を継続したほうがよいという回答が最も多くありました。

次にプールについてです。

児童生徒からは、屋内プールや屋根付きプールの設置、プール授業の選択制もありではないかという意見がありました。

教職員からは、プール授業や維持管理を民間委託できないかというご意見をいただきました。

市民からは、身を守るための術は身につける必要があるというご意見をいただきました。

次に不登校支援、サポートルームについてです。

教職員からは、支援員の増員、サポートルームの役割や位置付けの検討が必要というご意見があり、部屋を区切れるようパーテーションなどの設置を望む意見もありました。

就学前職員からは、子どもたちの居場所づくりについて、学校だけではなく、こども園を含む地域での取組みが必要になってくるという意見をいただきました。

市民からは、職員の専門性やスキルも大事ではないか、オンライン授業を受けられないかという意見をいただきました。

次に特別支援教育についてです。

教職員からは、保護者だけではなく教師も相談できる窓口の設置を望む声がございました。1クラスの上限を減らし人員の増員を望む意見も多くございました。

就学前職員からは、家庭・児童発達支援施設・こども園・学校の連携がより必要になってくるという意見をいただきました。

市民からは、人員の確保、必要に応じたシャワーやトイレの設置を望む意見がございました。

次に家庭・地域連携についてです。

教職員からは、学校のできることが分かりにくいので、コーディネーターの配置や地域とマッチングできる仕組みづくりを望むご意見がございました。

就学前職員からは、地域全体で子どもたちを見守る環境づくりを望むというご意見をいただいております。

市民からは、学校の統廃合により地域コミュニティが弱体化するのではないかという不安の意見がございました。

次に施設設備、教育環境についてです。

児童からは、室内で遊んだりゴロゴロしたりできる場所など自由空間の確保、全教室にエアコンの設置、ロッカーの完備、トイレの洋式化などを望むご意見がございました。

生徒からは、清潔で整った校舎や設備、居場所のある環境づくり、学びたいことを学べるように授業の選択制を望む意見がございました。

教職員からは、防犯カメラの設置や警察の常駐などによる安全安心の確保、新しい時代の学びが実施しやすいスペース、AIドリルやリモート授業の導入なども含めた学習環境の整備、空調や鍵の一括管理を望む意見がございました。

就学前職員からは、軽量タブレットなど学習機器の改善、暑さ対策の実施やスクールバスの導入、明るいトイレや多目的教室、地域や保護者と連携できるミーティングルームの整備など教育支援、生活環境を支える柔軟で充実した施設設備の整備を望むといったご意見がございました。

	<p>市民からは、防犯カメラの設置、スクールバスを導入した場合にはどのバスに乗車しているのかが分かるシステムの構築、トイレの改修、オンライン授業の実施などを望むご意見をいただいております。</p> <p>このようにたくさんのご意見をいただきましたが、やはり教員や介助員、スクールサポートスタッフといった人員の不足の指摘が多くなったと感じています。少人数学級を望む声も多くありましたが、少人数学級についてコストシミュレーションを行ったところ、市の負担が非常に大きくなること、また、教員が不足している状況の中で市が負担をしたとしても欠員が出る恐れがあることから、この計画においては 35 人学級で検討するとなりました。ただ、国・県に教員の増員配置などについて引き続き要望していくということも併せてまとまつたかと思っております。このあたりしっかりと対応していく必要があると考えております。</p> <p>また、教職員の働く環境やサポートルーム、特別支援教育など、いただいたたくさんのご意見は、高砂市の教育施設はどうあるべきかの検討の際に改めて参考にさせていただきたいと考えております。</p>
会長	本審議会の大きな役割の一つとして、適正規模適正配置の検討があります。小学校の適正配置については、基本的な基準として、おおむね 4 キロ・60 分以内という形でまとめていますが、60 分ではなく 30 分以内が望ましいという意見も寄せられていますので、今後の議論では、通学支援のあり方なども含めて検討が必要だと考えております。
委員	両荘みらい学園のような小中一貫校の場合は、小学校からそのまま中学校へ進む仕組みになっていますが、一つの建物の中で小学校と中学校を区分して運営している場合、どのように適正規模が決定されたのでしょうか。
事務局	<p>適正規模の方向性案として、小学校は 12~24 学級、中学校は 12~18 学級という基準を提案させていただきました。ご指摘の点は、小中一貫校のように小学校と中学校を一つに再編した場合、中学校の規模に合わせると小学校も同じ規模になるのではないかという趣旨だと思いますが、再編により 1 小学校と 1 中学校が組み合わさる場合、小学校と中学校の学級数が同程度になる可能性は確かにあります。ただ、現実的には常に同じ規模になるとは限らず、地域の状況によって変動する場合も想定されるため、まずは国の基準やアンケート結果などを踏まえ、小学校は 12~24 学級、中学校は 12~18 学級という適正規模の案を設定したところです。現段階の計画ではこの考え方で整理しており、審議会の議論でも概ねご了解をいただいたものと考えております。</p> <p>将来的に小学校と中学校を 1 対 1 で再編する場合、結果として両者が同規模になる可能性もありますが、小学校教育における適正な学習環境を考えたとき、まずは 1 学年 2~4 学級を確保することが重要だと思っています。現在は 2 小学校に対して 1 中学校という状況が多く、一気に 1 小学校 1 中学校で統合規模を揃えてしまうと、小学校の適正規模を超ってしまう可能性が高くなるため、現時点では小学校は 2~4 学級が最も適切であると判断し、この案を示しています。</p>
委員	<p>連続性のある小中一貫教育については、ソフト面では一体的に取り組むとされていますが、実際には小学校と中学校の校舎が別々の場合は、4・3・2 制などは難しいと思います。</p> <p>そのうえで、子どもの人数は、中学校段階になって急に増えることは通常ありませんし、少子化の影響で学年ごとの人数が多少変動することはあっても、極端に増減することは考えにくいから、小学校は 12~24 学級、中学校は 12~18 学級という適正規模を設定すること自体は理解できますが、小中一貫校として運営するのであれば、物理的に施設が離れている状況でどのように一貫性を確保するのでしょうか。</p>
会長	<p>いくつかのパターンがあって、一貫校ならば小学校 1 年生の段階から 4 クラスという形になると思います。</p> <p>ただ、ケースバイケースなので、今決めすぎてしまうとうまくできない可能性が</p>

	<p>あると思います。まずはこの形で示しておいて、再編する時に再議論する形でもいいのかなと思っています。</p> <p>両庄みらい学園は中学生が50人くらいしかおらず、1学年2クラスです。本当に小規模な学校になっている状況なので、市内の中でも小規模の複式学級を避ける小中一貫校を作るということであれば、1年生から9年生まで2学級ということはあり得ますが、それは望んでおらず、もう少し交流ができる規模の方がいいという提案になっています。</p>
委員	<p>要するに、現時点ではまだ具体的なことは決まっていないということですね。適正規模については方向性が示され、小中一貫教育を進めていくけれども、その移行プロセスについては幅を持たせるべきだと思います。</p> <p>「絶対にこうでなければならない」という形ではなく、さまざまな可能性や多様性を踏まえながら進めていくことが重要だということですね。</p>
事務局	<p>小中一貫教育の推進についてはこれまで議論があり、できるだけその推進につながる形で再編を検討していきたいと考えています。そのため、まずは適正規模適正配置の観点から、特に中学校の規模はしっかりと確保したいと考えています。小中一貫教育を進めるうえでは、ご指摘のとおり一施設一体型が最も望ましい形ですが、施設の状況や規模によっては、必ずしも一体型が実現できず、分離型とせざるを得ない場合もあると考えています。</p> <p>ただし、初めから分離型でよいと判断しているわけではなく、まずは一体型が可能かどうかを検討します。小中一貫教育の実現には、学校間の距離が非常に重要であり、離れすぎていると連携が難しいというご意見もいただいている。</p> <p>こうした点も踏まえながら、適正な規模を確保しつつ、小中一貫教育を十分に意識した再編計画を検討しますので、具体的な案をお示しする際に改めてご意見をいただければと思います。</p>
<b>2 議題 (4) 高砂市が目指す「これからの中学校像」</b>	
会長	議題(4)高砂市が目指す「これからの中学校像」について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>資料3高砂市が目指す「これからの中学校像」をお願いします。</p> <p>1ページの左側は審議会でまとまった今後の方向性案、真ん中は意見聴取結果の抜粋で、これらを踏まえて、高砂市が目指すこれから学校の重要なキーワードはこういうことかなということで、右側の丸の中に挙げています。</p> <p>一定規模の学習集団や一貫教育の推進といったキーワードが重要と考えています。これらのキーワードを共有したく、2ページに沢山の絵を掲載していますが、この中でも大きく4つのカテゴリーに分けました。</p> <p>1つ目、多様な教育活動ができる学習集団の規模の確保として、活気ある学校行事の様子として音楽会の状況、さまざまな意見に触れて互いに切磋琢磨できる環境として活発に授業がされている様子を表現しています。</p> <p>また、必要に応じて通学の負担軽減策を検討するとしており、一つの案としてスクールバスや自転車通学の様子を表現しています。</p> <p>2つ目、新しい時代の学びに対応した教育環境の整備として、一貫教育の推進として教職員同士が交流し意見を交わす様子、学年を超えた交流としてこども園と小学校・中学校が交流する様子を表現しています。教育DXの推進としてICTを活用して海外と交流している様子、個別最適・協働的な学びとしてタブレットによる自分のペースで学習をしている様子やグループ学習で児童生徒が互いに協力しながら学んでいる様子を表現しています。探究的な学びとして産官学連携により臨海部の企業の方から直接お話を伺うなど、高砂STEAM教育を実践している様子を表現しております。</p> <p>3つ目、安全・安心、快適に過ごすことができる施設の整備として、多様なニーズの支援として一人一人のニーズに応じた支援を行い、子どもたちが落ち着いてしっかりと学んでいる様子、ユニバーサルデザインとしてエレベーターやきれい</p>

	<p>なトイレで子どもたちが快適に利用している様子を表しています。絵ではわかりにくいけれど、誰もが使いやすいようなデザインがなされているということをここでは意識しています。老朽化対策として計画的に大規模改修や建て替えと抜本的な対策をしている様子を表現したかったのですが、次回は変わっていると思います。快適に過ごせる学校施設として、職員室では打合せスペースの確保やホワイトボードを使ってやりとりができるような教職員が働きやすい場、屋内で子どもたちが自由に遊んでいる場を表現しています。防犯対策として人によるセキュリティ確保の様子ですが、人なのか機械なのか設備なのかは別として、しっかりとセキュリティを確保している様子を表現しています。プールのあり方について民間温水プールで授業を受けている様子、給食のあり方としてセンター方式とか自校方式でおいしい給食が提供されている様子、ランチルームで楽しく食事をしている様子などを表現しています。</p> <p>4つ目、地域とともにある学校の推進として、学校運営協議会の充実として地域の方々による見守り活動をしてくださっている様子やご協力いただいている方が活動しやすいようスペースを設けている様子、部活動の地域展開として地域クラブが活動している様子、防災機能強化として学校が避難場所であることから避難訓練をしている様子、学校施設の複合化・共用化として体育館を地域の方々が利用されている様子などを表現しております。こういった4つのカテゴリーに表現されているさまざまな環境をどのように実現していくのかを基本方針でまとめていきたいと考えております。</p>
会長	これまでの議論を踏まえてこれからまとめの作業に入っていく訳ですけれども、最終ページにあるような4つの基本方針という柱まで行ければと思います。
委員	<p>基本的には統廃合を前提とした方向性をお示ししたいのだと思いますが、見える化の部分で、多様な教育活動ができる学習集団の規模の確保はもう少し具体的な内容を示したほうが良いと思います。</p> <p>安全・安心、快適に過ごすことができる施設の整備は、いわゆる“館”のような印象を与える、このような学校になると受け取ってしまう方が出てくる可能性もあると感じています。</p>
委員	民間温水プールの活用が出ていますが、学校再編の際に民営プールの開設がある程度重ならないと、この前提が崩れてしまうのではないかでしょうか。
事務局	<p>小学校のプール授業について民間委託化ができないか検討を進めています。再編時にできることとできないことはありますが、できることから少しづつでもやっていきますので、再編と同時ということではないです。</p> <p>他の絵もそうですが、イメージとして挙げていますので、必ずしもこの文字どおりになるということではないです。例えば、防犯対策で警備員が立っていますけど、警備員のやり方でいくのか、違う方向なのは検討し、セキュリティ確保をしっかりとしたいというイメージで書いています。</p>
会長	このイラストを見て、そう決まっているのではないかという誤解を生みかねないので、イメージではあるけれども、整合性と表現の検討をお願いします。
委員	<p>それであれば、見える化をする必要があるのでしょうか、文字情報のまま示せば良いのではないかでしょうか。図やイメージを示すことで誤解を招き、市民や学校関係者が将来こういう学校になるのだと思い込んでしまうと、さまざまな不都合が生じる可能性がありますので、文字だけのほうが望ましいと思います。</p> <p>良いものを見るとイメージが先行してしまい、期待が膨らみますが、本質的な検討はそこではなく、小中一貫教育の形態も施設一体型だけが答えではありませんし、併設型であっても小中一貫教育は推進していかなければなりません。</p> <p>良いイメージに引っ張られてしまいますが、既存の学校やこれまでの教育を継続しながら、段階的に進めていく必要があります。</p> <p>現場としても、こんな学校になるのですよねと期待されすぎると、逆に大きなプレッシャーとなってしまいます</p>

事務局	絵で表現したのは、できるだけイメージを共有したかったからです。具体的な部分の確定ではないですけれども、こういうイメージは実際にしたいと思っているので、決して夢物語として考えているわけではありません。ただ、誤解につながるものは修正していきたいと思っています。再編が大きなテーマですけれども、老朽化や施設の課題解決も併せてする中で、4要素はしっかりと取り入れつつ、改善後の学校が現在の課題や将来のニーズを踏まえたものとなるようにしたいという思いもあり、こういった学校を実現したいという方向性を示す意図から記載させていただいている。
会長	基本方針としてはこの4つの柱が出ればいいですから、実現のタイミングが遅れすぎる心配があるのであれば、見える化の絵は議論のためにイメージを出したという形にて、この委員会限りでもいいかもしれません。
委員	これはイメージで必ずしもそうなると限りませんので、イメージを膨らませないでいてくださいと書いく方法でもいいのではないでしょうか。
会長	この後は、皆さんで文字面をどんどん増やしていくわけですが、そのためつなぎとなる部分でもありますので、最終的にはこの4つのカテゴリーに沿って議論を進めていければと思っています。 一貫教育の推進のところで、校区再編のときに一貫教育と書くと、再編のための一貫教育という誤解を招くため、学びの連続性・系統性を確保するために一貫教育を行うという趣旨もあるので、教育の目的を中心に書いていただく方が適切ではないかと思います。この部分の表現は修正してください。
委員	起業家としての立場から、理想や将来の姿について語らない組織は、成功も成長もできません。従業員や組合にどう言われるかを気にして、夢物語のように見えることであっても、こういう姿を目指したいというビジョンを共有すること 자체をやめてしまうのであれば、議論をする意味がありません。 市民や子どもたちにとって最も良いことは何かが第一にあるべきで、施設の老朽化や統廃合の必要性といった大きな課題が存在している以上、マイナス要素だけでなく、どうせ統廃合が必要なら、目指す学校像も一緒に考えていくということがこの委員会の役割だと考えています。 もちろん、示した案が最終的に実現できるかどうかは分かりませんが、理想や思いを含めて一度出してみて、そこから議論を重ねて削り、より現実的なものにしていくプロセスが必要です。出した案が勘違いされるかもしれないという理由だけで何も示さないのであれば、この場を設けている意味がないです。 まずは出すことに大きな意味があり、それを丁寧に職員や学校関係者へ説明し、市民にも広く参加してもらいながら理解を深めていけばよいのです。引き続き積極的に案を示していただき、議論を深め、そのうえで市民にどう伝えるかを本委員会でしっかりと検討していくべきだと考えます。
会長	ここで皆さんからさまざまご意見をいただきたり、こちらの考えをお聞きいただきたりすることこそが、本委員会での重要な作業だと考えています。
委員	基本方針が推進計画の第1章に載ってくるという認識で良いですか。
会長	現在のところは、その通りです。
委員	第1章を基本方針として、第1節で多様な教育活動ができる学習集団の規模の確保を載せて、第4節まであるイメージですね。 何年の計画なのかによって考え方方が違ってくるかもしれないので、推進計画は全体で何年計画か教えてください。
事務局	およそ20年と考えています。
委員	20年間のうちに中間評価は何回されるのでしょうか。20年という長期計画である以上、計画策定当初に設定した学校規模や校区再編、小中一貫教育などの方針についても、10年後に状況が大きく変化していれば見直す必要があると考えています。20年先を見越して計画を立てることは不可能に近いと思うので、この基本

	<p>方針には、現時点で再編すべき最重要事項を明確に示すことが、市民の理解と関心を得るうえでも重要だと思います。</p> <p>また、20年計画であれば、工程表の中に何年後に計画を評価・見直すのかを明記すべきです。例えば、本計画は○年○月から○年○月を期間とする。なお、○年ごとに計画の進捗評価および見直しを行うと明記しておけば、できなかつた点や到達できなかつた点についても適切に評価できます。そのうえで、再度方針を調整し、実現に向けて軌道修正することが可能になります。</p> <p>5年計画であれば短期的にできる・できないを判断しなければなりませんが、20年計画であれば今すぐできない部分があつても、長期的な方向性として掲げること自体は問題ありませんし、むしろ目指すべき姿を明確に示すことが重要です。</p> <p>見える化に関しては、一目で理解しやすいという利点がある一方で、瞬間に見た市民がこうなるに違いないと誤解する可能性もありますが、方向性を伝えるうえでは有効な手法でもありますので、誤解を与える部分については工夫しつつ、基本方針の中にイラストや図を用いること自体は、市民に流れや全体像を理解していただくうえで有益だと考えます。</p>
--	--

## 2 議題 (5) その他

会長	<p>議題 (5) その他について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>20年間の間にいつまでに見直しをということについて、今のところまだ決めていないですが、計画の中でロードマップを定めようとしていますので、おおよそどれぐらいの間にどこの学校がどうなるというのは出ますので、それが大きく変わることになれば、その都度見直すことになると想っています。ただ、それがロードマップ上の1年2年のことと大きく変えるかというと、そういうことではなくて、時代が変わると目指すべき内容も大きく変わるとと思うので、当然ながら見直すべきところです。</p> <p>資料4高砂市新たな学校づくり推進計画策定等業務工程表（令和7年度）をお願いします。</p> <p>今後の流れについて、第6回でこれから学校像の見える化として絵を見ていただき、共有させていただきました。何点かご指摘があり、これから学校運用を実現するための4つの基本方針の中で言葉足らずがあるとのご指摘もいただきましたので、第7回の骨子案でしっかりとお出ししたいと思います。一貫教育の推進の修正についても、教育面と校区再編の考え方も盛り込んでいきたいと考えております。</p> <p>第7回の12月11日には骨子案を出させていただき、第8回には基本方針案として、ブラッシュアップした内容を考えています。2月に予定の第9回には、審議会の新たな学校づくり基本方針案という形でまとめていきたいと考えています。2月の方針案の下に構成案とありますけれども、こういう章立てで構成を考えており、先ほどの4つのカテゴリーで基本方針をブラッシュアップしたものが、第4章に盛り込まれていく形になります。第5章につきましては、基本方針を実現するにあたって、来年度以降どのような形で進んでいくのかをお出ししたいと考えています。</p> <p>今回の方針は、来年度より本格的に検討する校区再編や施設のあり方など、新たな学校づくり推進計画策定に当たってどうしていくかという方向性を示す段階です。付属機関である本審議会での議論だけではなく、さまざまな形で意見聴取を行ってまいりましたので、基本方針はパブリックコメントを実施せずに進めたいと考えています。</p> <p>2月に審議会での基本方針案を策定し、教育委員会に報告、報告を受けた教育委員会が市としてこういう方針ですというのを3月末に定めます。それを受け、4月後半か5月にこの方針についての説明会をさせていただき、ご意見もいただけたらと考えています。</p> <p>来年度からはこの方針に基づいて再編案、施設のあり方を検討し、審議会の場に</p>

	<p>出させていただきつつ、地域等のご意見をいただく場を設け、議論に反映していきたいと考えています。</p> <p>推進計画は、令和8年度末に答申としてまとめて教育委員会に出したいと考えており、令和9年度からは答申内容を受けて、市の新たな学校づくり推進計画案としてパブリックコメントや説明会を行い、令和9年9月末に市の計画として策定を予定しています。</p>
会長	<p>4つの基本方針のカテゴリーを12月11日の第7回で、方針骨子案として作成していただきますので、そこで詰めて議論をしていきたいといつてあります。さまざまな情報提供がありましたが、それらを具体的に基本方針や再編検討の中で詳細に検討していくことになると思いますので、今日の議論も踏まえて、皆さんの方からご提案があれば事務局の方にお寄せいただきたいとも思います。</p>
<b>3 閉会</b>	
会長	<p>本日の議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>委員の皆様、長時間のご審議ありがとうございました。 次回は今までご議論いただいた内容を基に、新たな学校づくり基本方針の骨子案をお出ししたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。</p>
教育長	<p>副会長から共有・共用といった新しいキーワードをいただきましたので、そのことも頭に入れながら考えていただけたらなと思います。 理想と現実の狭間でのものを作っていくことになりますので、この審議会で考えていただけたらありがたいと思います。今後とも対話を中心にしながら進めていただきますようお願いします。</p>
会長	<p>以上を持ちまして、第6回高砂市新たな学校づくり推進審議会を終了いたします。</p>